

野生動物のほとんどは、自分や子の食べ物をその日その時に採取・捕獲して栄養摂取しています。しかし中には、食べ物をため込む習性を持っている者もいます。「貯食行動」という習性です。リス（ニホンリス）もその一種です。

リスは木の実…特にクルミの実を好んで食します。しかし木の実是一年採れるわけではないので、木の実が豊富な秋のうちにたくさんの木の実を集めておいて、それをあちこちに隠しておくのです。冬の間は餌がほとんどとれない時期にそれを掘り出して、栄養にするというわけです。春になっても、隠した木の実を探すリスの姿はよく見られます。この日も盛んに地面を掘り返すリスがいて、それを遠隔で追って観察してみました。見事にクルミの実を見つけ出した・・・と思ったのですが、実際は半分に分かれたクルミの殻で、誰かの食べ残しでしょう。それでもリスは喜んで中身を食べていました。

リスはすべての「隠し場所」を覚えているわけではなく、そのまま放置されたり、中には発芽する種子もあります。その意味ではリスも種子の拡散に一役かっているわけです。私なんか、冷蔵庫に「貯食」した食べ物すらすっかり忘れて、つい賞味期限を切らせてしまいます。リスより始末が悪いです。

(2024年5月中旬／北軽井沢／遠隔観測)

